

第1学年 保健体育科学習指導案

日 時 2011年10月28日（金） 5校時
学 級 1年A組
（男子17人、女子14人、計31人）
場 所 一関市立千厩中学校 体育館
授業者 教諭 丹 野 久

1 単元名 体育分野 球技 「ネット型 バレーボール」

2 単元について

(1) 単元について

球技は、ゴール型、ネット型及びベースボール型などから構成され、ボールを通しての攻防から、多くの技能を身につけることができる運動であるとともに、個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗を競い合うことに楽しさや喜びを味わうことのできる運動でもある。

ネット型は、コート上でネットをはさんで相対し、身体や用具を操作してボールを空いている場所に返球し、一定の得点に早く到達することを競い合う運動である。その中で、バレーボールは、チーム型の運動であり、レシーブ・トス・アタック・ブロックなどのそれぞれの個人技能の高まりが集団的技能の質的向上につながることから、生徒一人ひとりが得点に貢献していると実感できる。一方で、相手や味方との身体接触がほとんどなく個人のプレーができる特性があり、個人技能の習得状況が明らかとなることから、失敗経験が、生徒の苦手意識や意欲低下を招くことにつながる場合もある。

(2) 生徒の実態

生徒は元気で明るく、授業に意欲的である。一方で、運動や集団活動に対して苦手意識を抱く生徒もいて配慮が必要である。4月の授業開きの際に実施したアンケートにおいて、「小学校時代の楽しかった体育の授業は？」の問いに対し、男子14人/17人が集団的運動である球技名を書いているのに対し、女子は、3人/14人という結果（縄跳び5人、水泳1人、跳び箱3人、他2人）であった。

また、学習指導要領の移行に伴い、小学校体育のボール運動「ネット型」において、バレーボールを経験してきているが、前記のアンケートにおいて、バレーボールの授業が楽しいと回答した生徒は、1年A組で1人学年全体で6人と、ドッジボールやバスケットボールに比べて少ない傾向が見られた。

1年A組では、バレーボール部に所属する3人（男子1人、女子2人）が安定した技術力を見せ手本となっている。

(3) 指導について

本単元では、技術の習得とともに、集団的活動を通じて健全なコミュニケーション能力を育成することを指導の重点とする。前半は、バレーボールのパス・サーブなどの個人技能の習得にむけ、反復学習に取り組ませるとともに、学級の生活班をチームとしミニゲームを多く取り入れ、バレーボールの特性に触れさせながら、声を出し合い、楽しく、協力してプレーすることで意欲を高めさせたい。また、一人ひとりにパスやサーブの個人技能の課題を意識させ、練習に取り組ませたい。ここまでは、ソフトバレーのネット、バドミントンコート6面を利用して、個々の生徒のボールタッチの回数を確保するとともに、実践的な感覚づくりに努めたい。

中盤では、男女混合のチーム編制を行い、リーグ戦での勝利を目標にパスをつなぐ練習を行うとともに、相手コートに空いている場所へ攻撃するなどの、効果的な攻防づくりに取り組ませたい。チーム練習の際、教師は、各チームに細やかに助言指導を行い、すべてのチームが意欲的に練習や練習試合に取り組めるよう指導し、単元のまとめとなるリーグ戦に向かわせたい。また、オーバーパスにおけるキャッチボールの反則行為を認めたり、ワンバウンドでのレシーブを認めたりするなどして苦手意識の克服とチームへの所属感を高めさせたい。

まとめとなるリーグ戦では、審判や副審、得点係の分担のもと、仲間と協力する態度を高めるとともにフェアプレーや「生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフの実現」にむけた礎をつくりたい。

- 3 保健体育科における「活用を意識した学習活動」のとらえ
 保健体育科においては、以下のような学習活動を「活用を意識した学習活動」ととらえる。
 (1) 運動の合理的実践を通して、個人・集団的技能を高めようとする学習活動
 (2) 運動における競争や協同を通して、個人やチームの課題設定や課題解決を行う学習活動
 (3) 運動の技術やルールを理解し、楽しく身体表現できる学習活動
 (4) 健康や安全に関する内容を理解し、自らの健康を管理できる学習活動

4 単元の指導目標

- (1) 【運動への関心・意欲・態度】
 フェアなプレーを守りながら、バレーボールの楽しさや喜びを味わおうとしている。
- (2) 【運動についての思考・判断】
 ボール操作やボールを持たないときの動きなどの技術を身につけるための運動の行い方のポイントを身につけている。
- (3) 【運動の技能】
 ボールの操作や準備姿勢などの個人技能を身につけるとともに、ボールを持たないときの動きを身につけ、攻防を展開できる。
- (4) 【運動についての知識・理解】
 バレーボールの特性を理解し、技術の名称やルール、ゲームの行い方を理解している。

5 単元の指導計画 (14 時間)

時間	学習内容	評価計画				「知識・技能の習得」の場面	「活用を意識した学習活動の場面」
		運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能	運動についての知識・理解		
1	・オリエンテーション ・コート準備 ・パス練習	◆バレーボールの特性に関心をもっている。			◆競技の特性や成り立ちを理解している。 ◆コート準備の方法を理解している。	○協力して、素早くコートの後片付けができる。	
3	・パス練習・サーブ練習 ・タスクゲームのルールと進め方 ・タスクゲーム	◆声を出してミニゲームに参加している。	◆オーバーハンドパス・アンダーハンドパスの運動の行い方のポイントを身につけている。		◆オーバーハンドパス・アンダーハンドパス・サーブの名称を理解している。	○基本技術の行い方のポイントを身につける。	☆基本技術を活用してのミニゲーム。
2	・ルールの学習 ・試合を進め方の進め方 ・審判を入れてのミニゲーム	◆フェアプレーを守ろうとしている。 ◆声を出してゲームを楽しんでいる。		◆相手のサーブに対する準備姿勢をとることができる。	◆ゲームの運営、審判の方法を理解している。	○ルール、ゲームの進め方がわかる。	☆審判を入れてのミニゲーム。
1	・チームづくり ・コートの準備 ・試しのゲーム	◆協力して練習・ゲームに参加している。			◆コート準備の方法を理解している。		
4	・つなぎを意識した攻防 ・タスクゲーム 【2/4本時】	◆声を出してコミュニケーションを図りながらプレーしている。 ◆アドバンス練習をしながらかける。	◆ボールを持たない時の動きを見ることができる。	◆オーバーハンドパス・アンダーハンドパスが身に付いている。 ◆サーブが安定している。 ◆サーブへの準備姿勢がとれている。		○パスをつなぐための移動の仕方がわかる。	☆ネット際のプレーの対処ができる。 ☆相手のコートにいる場所を空手で見つけることができる。
3	・リーグ戦	◆ゲームの運営に協力している。 ◆互いを認め合い、楽しみながらゲームをしている。 ◆他の試合を見学し、好プレーに拍手を送ったり、声をかけている。		◆パスのつなぎを意識した移動ができる。 ◆素早くポジションに戻る。 ◆空いた場所へ攻撃することができる。		○みんなが協力してゲームを運営できる。	☆他のゲームを観戦しながら、自立して戦う。

6 本時の指導

(1) 目標

- ①声を出してコミュニケーションを図りながらゲームをすることができる。(関心意欲態度)
- ②パスをつなぐことを意識した移動ができる。(技能)

(2) 本時の構想

本時は、バレーボールの攻撃の醍醐味である三段攻撃につなげるための指導の2時間目となる。前時のタスクゲームでは、自コート内でのパス回数をそのまま得点とし、大逆転のスリルの中、パスをつなぐことを意識させた。本時は、3ヒット以内で相手コートにボールを返すルールとし、レシーブに対する準備動作の定着を確認しながら、安定したレシーブやパスでボールをつながせたい。その際、ワンバウンドレシーブを認める者、オーバーハンドパスにおけるキャッチボールの反則をとらないことを引き続きルールに取り入れ、意欲を持続させながら練習やゲームに臨ませたい。

展開において、教師は、本時のタスクゲームのルールを説明し、その後、チームを単位とした交流練習を行わせる。教師は、各チームの練習を見ながら、ポジションの確認やボール操作に直接関わらない場合にどのように動けばよいか予測させ、一つのボールに対して全体で動くことを指導する。このような中で、レシーブボールをコート中央に集めることや、レシーバーやつなぎのパスを出す者へのフォローの動きなどの集団的スキルの定着を図りたい。

また、各チームの練習の際には、移動によって空きスペースが生じることを話し、移動後に素早く戻ることを指導するとともに、安定したパスをつなぐことで、相手の空いているスペースに攻撃することができることに気づかせたい。

本時は、本単元で指導の重点としているコミュニケーション能力の育成に努めるべく、生徒一人ひとりが声を出しながらプレーすることを各場面で確認しながら進めたい。

(3) 本時の評価基準

	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する生徒の手立て
運動への関心・意欲・態度	自らが中心となり声を出し、チームのコミュニケーションを図っている。	声を出してコミュニケーションを図りながらゲームをすることができる。 評価①	声を出しプレーするよう働きかける。
運動の技能	パスをつなぐために移動し正確なパスを出している。	パスをつなぐことを意識した移動ができる。 評価②	準備姿勢をとらせ、ボールによって移動するよう働きかける。

(4) 展開

段階	指導内容	学習活動	指導上の留意点(◎)活用の場面(★) 習得の場面(○)、評価(■)
導入 15分	1 コート準備	1 担当グループがコートの設営をする。	◎コートの安全を確認する。
	2 ランニング・準備体操・パス練習	2 チームごとにランニング、準備運動、パス練習を行う。	◎怪我防止に努めさせる。
	3 課題提示	3 本時の学習課題を把握する。	
	【学習課題】 レシーブ→パス→パスで相手コートに攻撃しよう！		
展開 20分	4 タスクゲームのルールの確認	4 タスクゲームのルールを確認する。 【本時のルール】 ・レシーブやパスの回数をそのまま得点(上限3点)とし、9点先取のゲームを行う。	◎レシーブに対する準備姿勢の確認 ◎ルールを理解させ、タスクゲームにおけるパスをつなぐ有効性を意識させる。
	5 チーム練習	5 チームごとに練習を行う。 ・ポジションの相談と決定 ・レシーブ→パス→パスの練習	◎各チームをまわり、課題に沿ったアドバイスを送る。 ○レシーブ→パス→パスを意識させ練習させる。 ○ボールを操作する仲間へのフォローの動きを身につけさせる。 ■評価①・②
	6 タスクゲーム	6 それぞれの練習成果を発表するタスクゲームを行う。	★相手コートの空きスペースをみつけて攻撃している。 ★ネット際のプレーへの対処ができる。 ■評価①・②
終結 15分	7 本時の反省	7 チームごとに練習、練習試合結果からチームや個人の成果と反省を発表する。	◎相手コートの空きスペースをみつけての攻撃やネット際のプレーへの対処について具体をあげ評価する。
	8 整理運動	8 整理運動を行う。	
	9 次時予告とあいさつ	9 次時への目標を持つ。	
	10 コートの後片付け	10 担当グループがコートの後片付けをする。	◎安全を確認する。